

夢中になれる英語の学習をめざして

高知県南国市立大湊小学校 中島 佳史

はじめに

本校は、2009年度文部科学省「英語教育改善のための調査研究事業」の指定を中学校校区（香南中学校・日章小学校・本校の3校）で受けて以来、英語教育に取り組んできました。また、事業指定が終わった後も県教育課程特例校として、4年生以上は教科としての英語の学習をしています。

ここでは、本校の大まかな英語教育の取り組みや授業実践の一端を紹介します。

1 英語教育の概要

本校では、4年生以上が週1回（年間35時間）、教科としての英語の学習をしています。カリキュラムは、*Hi, friends!*の内容に準じたものに、“My hobby is ~.”や“What’s Japan famous for?”等の単元を加えたものになっています。また、学期末ごとに4人のネイティブゲストに来ていただき、交流学習もしています。

指導は、担任、ALT、専科教員（英語の専科教員ではなく、理科や家庭科を指導している専科教員）の3人でしています。本校は、どの学年も児童数が20名以下の小規模校ですので、一斉にリピート練習したり、ゲームをしたりするだけでなく、一人ひとり発音させたり、小グループで学習し、個々の状態



をチェックするようにしています。指導者が絵カードを持って児童間を回りながら一人ひとり発音させたり、3グループ

に分かれて指導者がそれぞれのグループに付き、カードゲームをしながらスピーキングをチェックし、その場で指導していく等の活動を授業の中に組み込んでいます。

また、授業の始めにALTのスピーチを入れるようにしています。スピーチの内容は、ALTの好きなもの、週末のこと等できるだけ生活に関わることを話してもらうようにしています。スピーチを始めた頃は、児童が聞き取れないことも多く、担任がストップをかけたり、言葉を補うことも度々ありましたが、授業で学習する表現以外の英語にも慣れ、少しずつですが話の大まかな内容が理解できるようになってきています。評価については、下の表のようにしています。



各観点と評価方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
行動観察	行動観察	行動観察	行動観察
振り返りシート	スピーキングテスト	リスニングテスト	振り返りシート

スピーキングチェックシート

Speaking Check		"This is my family"		November 13 Wednesday	
学習の目標 自己紹介の表現になれ、自分の家族を紹介する。					
評価項目 ◎自分で書いた絵を見せながら家族を紹介したり、紹介した後、この人物は誰なのかを尋ねたりすることができているか。					
名前	NO.	評価	コメント（表現、声の大きさ、相手の目を見て）	表現	
1				Can I show you my family?	
2				N This is my ~.	
3				a He/She/It is ~.	
4				b He/She/It likes ~.	
5				c He/She/It can ~.	
6				感想	
7					
8				好きなもの	

リスニングチェックシート

2学期聞き取りテスト① (day, month, date)

5th grade name ()

◆リロイ先生が言っていることを聞きとって線でつなぎましょう。

①・	・兄、弟
②・	・お母さん
③・	・おじいさん
④・	・おばあさん

2 授業の様子（5年生）

○“What time is it?”

この単位では、60までの数を数えたり、時刻を尋ねたり答えたりできるようにすることを目標にしています。（20までの数は4年生のときに学習済み）“What time is it?”や“It’s ～.”という表現は比較的短時間で身に付きますが、アナログ時計を見てすぐに時刻を答えることは難しいため、朝の会や終わりの会、毎時間の号令のあと等、日常的に、“What time is it?”と児童に尋ねるようにしました。また、社会科の「日本は世界のどこにある～世界を一周してみよう～」の単位とも関連付け、世界の国々の名前や国によって時刻が違う等の学習を取り入れたタスクも



設定しました。4時間目の学習では、各教室を様々な国に見立て、グループに分かれてインターホン越しに相手の国の時刻を聞きあいました。

○「家族を紹介しよう」

この単位では、“He [She] is ～.” “He [She] can ～.” “He [She] likes ～.”等の表現を使って家族の紹介することを目標にしています。また、紹介したあと、“Who is ～?”と紹介した相手に質問をします。最後の4時間目の学習では、授業を見に来てくださった先生方に家族を紹介したり、“Who is ～?”と質問したりする活動をしました。“What time is it?”の学習同様、隙間の時間を利用して“He [She] is ～.” “He [She] likes ～.”

等の表現を日常的にアウトプットするようにしました。

3 ネイティブゲストとの交流学习

本校では、毎学期末にネイティブのゲストに来ていただき、交流学习をしています。この交流学习では、学期内に学習した表現を使うように心がけています。各学期末に行われるこの単位は、単にそれぞれの学期の復習というだけでなく、いろいろな国の人々と自分の英語でコミュニケーションをとる体験をさせたいとも考えています。また、毎回できるだけ違う国のゲストに来ていただくことにより、様々な国の人が英語を使っていることや



英語はコミュニケーションツールであることを意識させたいと考えています。

おわりに

教科として英語を指導していくとき、どうしても意識してしまうのが「定着」です。しかし、提示した表現を覚えさせることばかりを重視してしまうと意欲の低下を起しかねないし、積極的なコミュニケーションを図るという大きな目標からも外れてしまいます。一方で、授業をしていてよく聞こえてくるのが、「きちんと言えないとおもしろくない。」という児童の声です。何となく“Good!”と言われるよりも、きちんと指摘してもらいたいと思っている児童は少なくありません。

表現や語彙の定着をしっかりとしながらも、児童が夢中になって英語でコミュニケーションをとりたいと思える授業を創っていくためにも、言えた、伝わったという体感がしっかりとできるタスクを設定していかなければならないと考えています。